

上部消化管汎用ビデオスコープ 1式

仕 様 書

令和 8 年 4 月

国家公務員共済組合連合会

新 別 府 病 院

【調達背景】

内視鏡室に於ける汎用ビデオスコープの歴史を語るには、今からざっと 40 年程前の歴史を紐解く必要がある。

昭和 60 (1985) 年に大分医科大学 (現在の大分大学医学部) より古庄精一医師が、翌 61 (1986) 年には平野雅弘医師が赴任され、内視鏡室の黎明期を支えられたことに始まるが、当時の上部ビデオスコープはオリンパス (現在のオリンパスマーケティング株式会社) 製、下部ビデオスコープはペンタックス (現在のリコーイメージング株式会社) 製と相場は決まっており、当時は藤澤医科器械株式会社 (現在の山下医科器械株式会社) が販売代理店であった。

平成 18 (2006) 年には手術室分野に於いて、それまでのカールストルツ (現在のストルツメディカル・ジャパン株式会社) 製腹腔鏡から、オリンパス製へと仕様を変更し、俗に言う「VPP 契約」がスタート。

手術室分野の安定稼働を受けて、後を追うように内視鏡室の「VPP 契約」が運用開始となり、年間 9,000 症例の内視鏡件数に支えられて、VPP 契約に伴う機器更新も極めてスムーズに行われる安定期が続いた。

ところが、令和 2 (2020) 年に未曾有のコロナ禍となった頃より、外来患者数が激減し、同 5 (2023) 年にコロナ感染症が 5 類感染症となって以降も患者数が元に戻らなくなってしまいう事態となった。

VPP 契約は一症例当りの単価契約のため、この段階で、見直しをしなければならなかったのだが、これを怠ったため、令和 7 (2025) 年 4 月の段階での一症例単価は 1,398 円にまで膨らんでおり、契約当初に「1,000 円を超過すれば VPP 契約をする意味はない」との定説は脆くも崩れ去っていたのである。

それどころか、第一代理店は内視鏡に於ける業務を適切に励行しているとはお世辞にも言えず、また泌尿器科に目をやれば、第一代理店でもない業者が我が物顔のように横行し、第一代理店の見積書が高額となる見積書が乱発されている等、当時とは比較しようがない程に、墮落と忖度に満ち満ちていた。

今回、約 8 年振りに古巣の用度課に戻り、これらの状況を招いた最大の原因は第一代理店が適切な対応に欠き、またメーカーが代理店に対して過度に一任し過ぎ、内視鏡の現場で起きている事象を把握し切れていないことにあると判断し、1 年間という限られた期間ではあったが、少しずつ手を入れて、言葉は乱暴であるが少しはマシな状態にまではなったようである。

民間企業に於ける実務担当者の引継ぎなど、ごく限られた期間の範囲内で行われ、それが満足行くものではないことなど、百も承知であるが、余りにも過去の歴史を紐解かず、ついぞ 2~3 年の浅く薄っぺらい話をするメーカーや代理店の多いことには、ほとんど呆れる限りで、物売りとしての不勉強、或いは確信犯的な実態には閉口するばかりである。

今回、調達をする背景としては、VPP 契約に含まれる GIF-1200N が 1 本、並びに PCF-H290ZI が 1 本、更には内視鏡室で購入して導入後 13 年目を迎える GIF-XP290N と GIF-HQ290 の内、前者については、更新をせずに廃棄することとしたが、後者については内視鏡室スタッフとも協議の上、更新の必要ありと判断したので、令和 8 年度事業計画に予算計上はしていなかったものの、今回買換えの運びとしたところである。

今回の入札は、GIF-1200N であり、定価は過去 6 年間に遡及しても不変であり、また代理店事情はこの 40 年間でいくらかの変遷はあるものの、一貫してオリンパス製は内視鏡室のファーストチョイスとして君臨していること、加えて導入実績に関しても十分過ぎる程の実績を備えている筈であることに鑑み、入札に参加を予定する業者は上述する経緯を十分に理解の上、参加されたい。

1. 必要条件

入札時点で薬事法に定められている製造の承認を得ている医療機器であること。

2. 調達物品名 : 上部消化管汎用ビデオスコープ

3. 数量 : 一式

4. 使用目的

本品は、オリンパスマーケティング株式会社指定の光源・ビデオプロセッサ装置と、内視鏡および周辺機器と組み合わせて、内視鏡画像をモニター上で観察する事を目的とする。

5. 構成内訳

1. GIF-1200N

(性能・機能に関する要件)

1. 上部消化管ビデオスコープ GIF-1200N は、以下の要件を満たすこと。

- 1-1 操作部には4つのスコープスイッチを有し、フリーズ、リリース、周辺装置のリモート操作が可能であること。
- 1-2 ワンタッチコネクタを有し、検査セットアップと検査後のスコープ取り扱いが容易であること。
- 1-3 上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-1200N は2.2mmの鉗子チャンネルを有していること。
- 1-4 電子内視鏡システムとの組み合わせにより、光デジタル法による狭帯域光観察(NBI)が可能であること。
- 1-5 高周波を利用しての内視鏡的処置を行うための高周波漏洩電流対策を有すること。
- 1-6 上部消化管汎用ビデオスコープは視野角140°を有していること。
- 1-7 上部消化管汎用ビデオスコープは先端外径5.4mmを有すること。
- 1-8 上部消化管汎用ビデオスコープは湾曲角度 Up 210°、Down 90、Right 100°、Left 100°を有していること。
- 1-9 上部消化管汎用ビデオスコープは有効長1,100mmを有すること。

以上